

2007年11月30日

「水俣ー熊本研修旅行」に関する参加報告書

(株) イエサブ ユナイテッド一級建築士事務所
庄司 和樹

□水俣ー熊本研修旅行について

研修旅行のはじまり

2007年11月22日(木)から24日(土)の3日間に渡り、(社)熊本県建築士会水俣・芦北支部様に招かれ、(社)東京建築士会の青年委員会で一緒に活動している建築家の高安重一氏(アーキテクチャー・ラボ代表)、設備設計者の庄司哲人氏(テーテンス事務所所属)と共に水俣ー熊本研修旅行に参加しました。3名を代表して参加報告させていただきます。

□11月22日(木) 水俣入り～研修のはじまり

鹿児島空港から水俣入り

羽田発8:35の飛行機で鹿児島空港へ。鹿児島空港で(社)熊本県建築士会(以下、熊本建築士会)の浜田さん(有限会社モードフロンティア代表)、境さん(水俣市産業建設部都市政策課)、高木さん(佑真設計事務所代表)に出迎えられ、そこから一路水俣へ。途中、愛林館にて昼食。その後、棚田を見学。棚田を活用した農業システムについて地元の農家の方から説明があり、農地活用の歴史とその変遷に一同感心させられました。次に、水俣市環境クリーンセンターへ移動。そこで、水俣市のゴミ分別状況の説明と、実際処理方法を見学。水俣市のゴミを通じた環境問題への積極的な取組みに感心しました。とりわけ、実際に処理現場で処理の内容を拝見させて頂いたことが大変勉強になりました。私達自身、ゴミ分別問題に対する意識が格段に高まったように思います。こういった行政サイドの環境問題への取り組みや、その現場の光景を子供達や一般市民へ向けて訴えかけていくことは、今後の建築士としての社会貢献活動の中に積極的に取り入れていくべきことを実感させられました。その後、産業団地へ移動し、環境テクノセンターで産業団地の概要説明を受けたあとに田中商店等を見学。空き瓶のリサイクルシステム等を学びました。



棚田風景



実際のゴミ処理風景

□11月22日(木) 18:00~研修1日目終了

環境建築報告事例の発表



17:30 に山海館（宿泊先）到着。18:00 より熊本建築士会芦北水俣支部の皆さんへ、東京組からの環境建築報告事例として、設備設計者である庄司さんから効率的な床暖房システム、及び、これまで手がけたエコ建築の概要説明を行い、その後、懇親会。水俣の建築業界の現状をありのままに知ることができ大変参考となった。翌日の早朝には、今回宿泊した山海館（木造5階建て旅館）の伝統建築とその保全状況について見学。東京ではまず見ることのできない木造5階建て建築のダイナミズムに圧倒されました。

山海館写真

□11月23日(金) ~研修2日目

建築士、行政、一般市民と連携した街づくり

9:00 に旅館を出発し、水俣病資料館・環境センター・情報センター・メモリアルを見学。今回の研修とは主旨がそれになってしまうかもしれないが、私はそこで、生まれてはじめて水俣病という事件について詳しく学んだ。そして、心に突き刺さるような強い衝撃を受けた。最後に、水俣病の犠牲となったある家族の話を吉本館長さん自ら説明して頂いた。水俣病の犠牲となった一家族の人生が時系列で展示されているのである。人間のたくましさや美しさ・素晴らしさを思い知らされた。多くの子供達に見て、知って、学んで頂きたいと思った。近年、いじめ問題と、それによる自殺等のニュースを耳にすることが多くなったが、いじめに負けるな、逆境に屈するな、まずは、自分の権利を主張すること、自分の意思を伝え続けることから始めよう。そんな強いメッセージを受けた。その後、大野温泉センター（くまもとアートポリス推進選賞）で昼食。昼食後、松井さんに案内され入浴施設の内部も見学させて頂く。次に、芦北青少年の家（設計/鈴木了二・エリア・ゼングリス+エレニ・ジガンテス）を見学。ここでは、実際に施設管理をされている方に案内して頂いたため、運営上の使い勝手について、リアリティー溢れるお話を聞かせて頂き設計者としても非常に参考になった。次に、建築家木島安史氏の遺作とも言える球泉洞森林館を見学。はじめて拝見したが、とても20年前の作品とは思えないクオリティと斬新さを感じました。



水俣メモリアル



大野温泉センター



芦北青少年の家



球泉洞森林館

17：30 に熊本市内のホテルに到着。18：00 より、熊本県建築士会青年部部長をされている佐澤さん達と合流し、東京の事例報告発表会 2 日目を行いました。最初に高安さんから東京建築士会で開催した住宅セクション vol.1 の概要を説明。住宅セクションとは、実在する敷地を対象とした住宅設計コンペで、建築家の藤森照信氏、伊藤豊雄氏を審査員として、全国から作品を募集。その中から 30 案をピックアップし、書籍としても出版した事業です。次に、荘司の方から東京建築士会青年委員会の活動内容を紹介し、また、熊本県小国町にある知人が運営する美術館「櫛の森美術館（くぬぎのもりびじゅつかん）」において行われている自然の森の中で芸術を楽しみながら学ぶ子供向けワークショップイベントを紹介。来年は、東京と熊本の建築士有志で家族連れで集まり、実際にワークショップに参加してみてもどうかと提案。また、一連の耐震偽装事件の影響により失墜した建築士の社会的地位の向上のためにも、建築士と行政と一般市民とが積極的に連携し、地域貢献活動や地域文化の活性化を通して住み良い街づくり・地域社会づくりを進めていこう！と合意し、懇親会となりました。

□11月24日（土）～研修3日目

建築士、行政、一般市民と連携した街づくり

朝 9:00 にホテルを出発。この日は、くまもとアートポリスの確認審査を実際に関われた本田さん（熊本県芦北地域振興局企画調査景観課）に案内して頂きながら、熊本城で熊本の歴史を学んだ後、砥用町林業総合センター（設計/西沢大良氏）、清和文楽館（設計/石井和紘氏）という巡に見学していきました。最後に見学した清和文楽館では、その木造架構技術に圧倒されました。客席上部の騎馬戦組工法は、その名の通り騎馬戦の時の手の組み方に由来する在来工法で、一方、展示室上部のバット工法は 3 本のミニチュアバットを組んで、野球選手のサインボールを乗せた置物と同じ原理を応用した架構だそうです。清和文楽館と同じ敷地内にある清和郷土料理館で昼食を取り、熊本空港へ。羽田空港へと向かう飛行機の中で、3 日間に渡る充実した研修の内容をゆっくりと反芻しておりました。実際に、その土地の建築士の方達に案内して頂けたこと、また、その土地の大勢の建築士の皆さんと交流できたこと。そして何より熊本という地域を非常に身近に感じられるようになりました。熊本建築士会の皆様、今回はお招き頂き本当にありがとうございました。今回の研修旅行の内容を責任をもって東京へと持ち帰り、一人でも多くの東京の建築士達に内容を報告させていただきます。そして、今後はお互いに情報を共有・交換しながら、建築士だからこそできる地域社会への貢献活動を共に模索・実践していきたいと思います。



熊本城



砥用町林業総合センター



騎馬鞍組工法



バット組工法



清和郷土料理館



以上